

# 南米[ブラジル]



## 1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農牧センサス(2017年)によると、農業経営体507万戸の所有面積は3億5129万ヘクタールとなり、このうち農耕地が6352万ヘクタール、牧草が1億5950万ヘクタールとなった(図1、表1)。ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)によると、2020/21年度(10月~翌9月)には7011万ヘクタールが穀物生産に向けられ、その生産量は2億5674万トン(前年度比0.1%減)となった。

畜産分野では、20年の牛肉生産量は米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国、中国に次ぐ世界第3位となった。また、豚肉生産量は中国、EU(英国を除く27カ国)、米国に次ぐ第4位となった。輸出量は牛肉、鶏肉が第1位、豚肉がEU、米国、カナダに次ぐ第4位となった。

20年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出額は、1007億米ドル(前年比3.9%増)となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は876億米ドルとなり、農業部門が同国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

図1 ブラジルの行政区分



資料:ブラジル地理統計院(IBGE)のデータを基に機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

(単位:千戸、千ha)

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,073
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	351,290

資料:ブラジル地理統計院(IBGE)

## 2 畜産の動向

### (1) 肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が中心であり、主に耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養形態も拡大している。

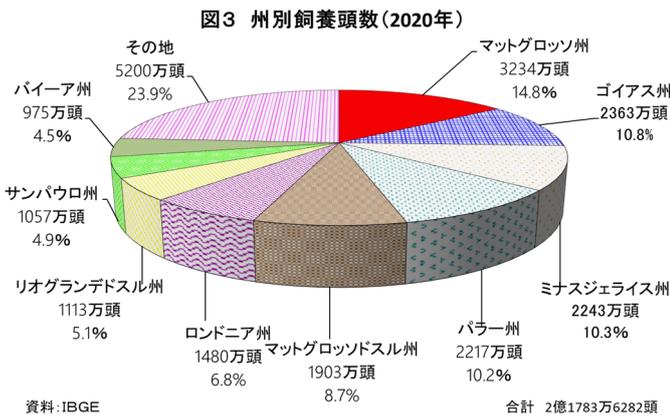
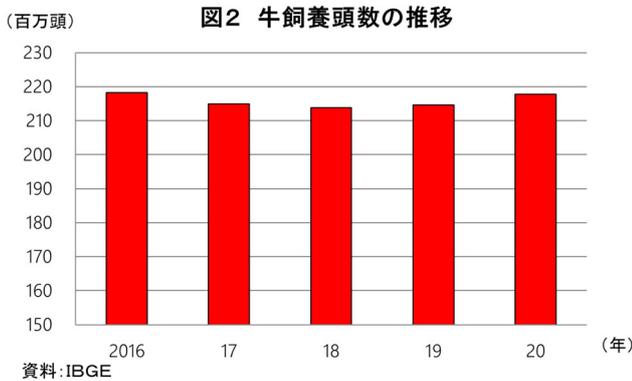
また、ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んだ結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局(OIE)より同国初のワクチン非接種清

浄地域のステータス認定を取得<sup>(注)</sup>し、21年5月にはワクチン非接種清浄地域としてその他4州の全域と2州の一部が追加認定された。また、その他の地域は、ワクチン接種清浄地域となっている。ブラジル農牧食糧供給省(MAPA)によると、将来的には、23年までに、ブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域の認定を目指すとしている。また、BSEについては、12年、14年および19年に高齢牛の非定型BSEが確認されたものの、21年12月時点ではOIEより「無視できるリスク」の国と認定されている。

(注) OIEは21年5月、ブラジル南部パラナ州、リオグランデスル州、北部アクレ州、ロンドニア州全域および北部アマゾナス州と中西部マツグロソ州の一部を口蹄疫ワクチン非接種清浄地域として認定した。

### ① 飼養動向

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2020年の牛飼養頭数は、2億1784万頭（前年比1.5%増）となった（図2）。州別に見ると、前年と同様に中西部のマツグロソ州が最も多く、次いでゴイアス州（中西部）、ミナスジェライス州（南東部）、パラナ州（北部）、マツグロソドスル州（中西部）と続いた。従来は、大消費地を含む南東部を中心に飼養されていたが、需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部、北部での飼養が拡大している（図3）。



### ② 牛肉の需給動向

#### ア 生産

米国農務省（USDA）によると、2020年のブラジルの牛と畜頭数は3942万頭（前年比3.0%減）、牛肉生産量は1010万トン（同1.0%減、枝肉重量ベース）となった。海外からの牛肉需要を背景に18～

19年に繁殖雌牛の淘汰が増加したことや、20年後半には長引く干ばつの影響で牧草の状況が悪化したことで、出荷体重に達するまでの農場での飼育期間を長期化したためである。



写真1 ゴイアス州の放牧風景

#### イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2020年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は172万4404トン（前年比9.9%増）となった（表2）。

これは、アジアなどからの旺盛な需要によるものである。特に中国向けは12年の非定型BSE確認以降停止していたが、15年6月の輸出再開以降、著しい伸びを見せている。さらに、同国でのアフリカ豚熱発生の影響による代替需要もあって、19年後半から中国向け輸出は大幅に増加した。20年に入り、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により中国国内の港湾での物流の停滞や外食を中心とした需要の落ち込みから輸入量は一時的に減少した。3月以降は回復傾向に転じ、年間では86万8704トン（同74.5%増）と輸出量全体の50.4%を占めている。

表2 輸出先別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2020年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (%)	輸出額 (%)	単価 (%)
中国	868,704	4,037,512	4,648	74.5	50.3	▲13.8
香港	208,185	811,370	3,897	▲7.6	9.4	18.5
エジプト	117,839	394,975	3,352	▲23.2	▲15.4	10.1
チリ	89,982	374,487	4,162	▲18.4	▲11.6	8.2
ロシア	53,162	184,836	3,477	▲16.5	▲13.7	3.4
サウジアラビア	39,853	158,444	3,976	▲4.0	12.1	16.8
フィリピン	39,224	133,077	3,393	14.7	28.0	11.6
その他	307,457	1,352,184	4,398	▲30.7	▲23.6	10.2
合計	1,724,404	7,446,886	4,319	9.9	13.8	3.5

資料: SECEX

注1: HSコード0201(冷蔵牛肉)、0202(冷凍牛肉)の合計。

注2: 輸出量は製品重量ベース。

注3: 出典が異なるため、表3と数値は異なる。

### ウ 消費

CONABによると、2020年の国内牛肉消費量は、586万5000トン（前年比8.8%減）となった（表3）。これは、中国からの強い牛肉需要を背景に輸出が拡大したことで、19年終盤以降、牛肉小売価格が大幅に上昇し、消費者の需要が安価な鶏肉などにシフトしたためとされる。

20年の牛肉の年間1人当たり消費量は、27.7キログラムと（同9.5%減）なった。2016～18年は横ばいであったが、19年以降は、上述の消費動向の変化によりかなりの程度減少した。

表3 牛肉需給の推移  
(単位:千トン、kg/人/年)

	2016	2017	2018	2019	2020
生産量	8,716	8,923	9,215	8,866	8492.7
輸入量	64	57	47	50	63
消費量	6,955	7,013	7,067	6,433	5,865
輸出量	1,825	1,967	2,194	2,483	2,691
1人当たり消費量	33.9	33.9	33.9	30.6	27.7

資料: CONAB

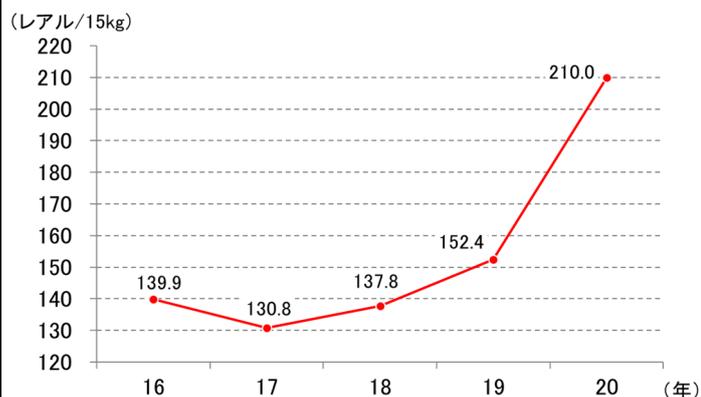
注1: 枝肉重量ベース。

注2: 出典が異なるため、表2と数値は異なる。

### ③牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2020年の肥育牛の平均価格（マツグロソドスル州カンポグランジ市場）は、1アローバ当たり210.0リアル（前年比37.8%高）であった（図4）。特に19年終盤に価格が大幅に上昇している。これを受けて牛肉小売価格（ランプ）は、1キログラム当たり34.7リアル（同18.8%高）となった。

図4 肥育牛の生産者販売価格の推移



資料: CONAB

注: マツグロソドスル州

## (2) 養鶏・鶏肉産業

ブラジルの養鶏・鶏肉生産は穀物生産が盛んな南部で全体の6割を占め、このほか中西部などで主に行われている。また、生産から流通まで一貫したインテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、BRF社、世界最大級の食肉企業であるJBS社および農協系最大のAURORA社など主要企業がけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く価格優位性があることに加え、鳥インフルエンザが未発生であり安定した供給が見込まれることから、世界最大の鶏肉輸出国となっている。

### ① ブロイラーの需給動向

#### ア 生産動向

CONABによると、2020年のブロイラー用ひなふ化羽数は、68億1000万羽（前年比5.4%増）、鶏肉生産量は、1468万3000トン（同5.4%増）となった（表4）。COVID-19の拡大により経済状況が悪化する中で、連邦政府による給付金プログラムが実施され、牛肉などからより安価な鶏肉へ国内需要がシフトしたことなどが要因である。

表4 鶏肉需給の推移  
(単位:百万羽、千トン、kg/人/年)

	2016	2017	2018	2019	2020
ひなふ化羽数	6,445	6,206	6,064	6,459	6,810
生産量	13,524	13,612	13,289	13,936	14,683
輸出量	4,307	4,232	4,018	4,175	4,125
1人当たり消費量	44.9	45.4	44.5	46.4	49.9

資料: CONAB

注: 輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

#### イ 輸出

SECEXによると、2020年の鶏肉輸出量は、389万9506トン（前年比1.3%減）と前年をわずかに下回った（表5）。海外からの堅調な鶏肉需要や米ドルに対するリアル安の加速から、ブラジル産鶏肉の価格競争力が高まった一方で、COVID-19の拡大により鶏肉需要の落ち込みもみられた。

全体の2割弱を占める中国向けは、同国で18年に発生したアフリカ豚熱の影響による代替需要により、67万

2611トン（同13.9%増）と前年をかなり大きく上回った。一方、これに次ぐ主要輸出先であるサウジアラビア、日本、アラブ首長国連邦といった中東やアジア向けは、COVID-19などの影響によりいずれも前年を下回った。

表5 輸出先別鶏肉輸出(2020年)

区分	2020年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	672,661	1,269,326	1,887	13.9	2.5	▲10.0
サウジアラビア	467,482	684,240	1,464	▲1.2	▲13.9	▲12.9
日本	401,463	657,559	1,638	▲4.1	▲18.9	▲15.4
アラブ首長国連邦	302,486	422,503	1,397	▲12.4	▲25.2	▲14.7
南アフリカ	261,392	117,935	451	▲4.4	▲30.1	▲26.9
香港	148,344	236,331	1,593	▲19.9	▲17.9	2.5
韓国	127,329	196,478	1,543	5.3	▲11.0	▲15.5
その他	1,518,348	1,897,158	1,249	▲1.7	▲18.1	▲16.7
合計	3,899,506	5,481,528	1,406	▲1.3	▲14.4	▲13.3

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

注3：出典が異なるため、表4と数値は異なる。

### ウ 消費

CONABによると、2020年の鶏肉の年間1人当たり消費量は、49.9キログラム（前年比7.4%増）となった（表4）。COVID-19の拡大による国内経済の悪化に伴い消費者の購買力が低下したため、牛肉より安価な鶏肉に消費者の需要がシフトしたとみられる。

## ②ブロイラーの価格動向

### ア 生産者販売価格

CONABによると、2020年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり3.38レアル（前年比2.7%高）と前年をわずかに上回った（図5）。

これは、ブロイラー生産コストの約7割を占める飼料費が20年後半から大幅に上昇したためである。飼料の主原料となるトウモロコシを見ると、生産面では、主産地を中心とした干ばつなどの影響により前年を下回った。一方、需要面では、COVID-19の影響があるものの、国内畜産農家からの需要に加え、米ドルに対するレアル安を背景とした輸出需要が堅調となったことで価格は上昇した。

### イ 卸売価格

2020年の冷蔵丸どりの卸売価格（同州）は、鶏肉の引き合いが強まったことで1キログラム当たり4.74レアル（前年比8.5%高）となった。

図5 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



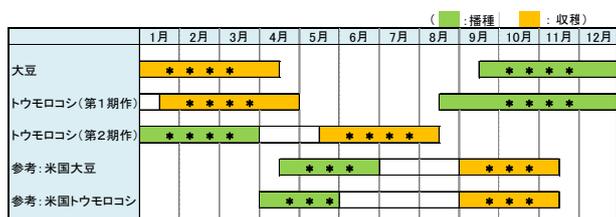
資料：CONAB

### 3 飼料穀物

ブラジルの2020/21年度（3月～翌2月）のトウモロコシの生産量は米国、中国に次いで世界第3位、20/21年度（10月～翌9月）の輸出量は米国、アルゼンチンに次いで第3位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第1期作）と冬作（第2期作、第3期作）の年3回行われる（図6）。20/21年度（10月～翌9月）の第1期作はミナスジェライス州（南東部）、第2期作はマットグロッソ州（中西部）、第3期作はセルジッペ州（北東部）がそれぞれ最大の生産地となった。パラナ州をはじめ伝統的に生産が盛んな南部3州のシェアは生産量ベースで18.4%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州連邦直轄区）は、19/20年度比0.3ポイント増の同55.7%となった。

図6 ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料: CONAB、米国農務省 (USDA)  
注: 主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。\*印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

#### ① 主要な政策

2020/21会計年度（7月～翌6月）は、MAPAが管轄する農業部門に対し、過去最大規模となった前年度をかなりの程度上回る2363億レアル（前年度比6.1%増）が予算措置された（表6）。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

(単位: 億レアル)

農業年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21
総予算額	1,838	1,884	1,911	2,227	2,363
営農・販売融資	1,498	1,503	1,511	1,693	1,794
投資融資	340	381	400	534	569

資料: MAPA

営農・販売融資については、1794億レアル（同5.9%増）の予算が措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に係る経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。

投資融資については、569億レアル（同6.6%増）が予算措置された。同融資は、ほとんどの場合、MAPAが管理し、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行（BNDES）が融資を行う。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム（ABC、予算額25億レアル）が含まれている。具体的には、有機農業プログラムへの適応、牧草地の回復、農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入などを奨励している。このほか、農業用トラクターおよび収穫機などの近代化プログラム（Moderfrota、同97億レアル）、倉庫建設・拡張プログラム（PCA、予算額22億レアル）などが盛り込まれている。

#### ② 飼料穀物の需給動向

2020/21年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産量は、8709万7000トン（前年度比15.1%減）と過去最高を記録した前年度をかなり大きく下回った。（表7）。

トウモロコシの播種は、第1期作から第3期作に分けられる。生産量全体の約7割を占め、大豆収穫後に播種を行う第2期作を見ると、作付面積は増加したものの、主産地での干ばつや中南部での降霜や低温などの影響から単収が落ち込み、生産量は前年度を大幅に下回った。

また、同年度のトウモロコシ輸出量は、2081万6000トン（同40.3%減）と前年度を大幅に下回

った。国内では7226万4000トン(同5.2%増)が消費され、778万2000トン(同27.1%減)が期末在庫として次年度に繰り越された。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

区分	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21
期首在庫	5,231	15,876	14,582	10,189	10,674
生産量	97,843	80,710	100,043	102,586	87,097
輸入量	953	901	1,596	1,453	3,091
消費量	57,337	59,162	64,958	68,663	72,264
輸出量	30,813	23,742	41,074	34,893	20,816
期末在庫	15,876	14,582	10,189	10,674	7,782

資料:CONAB

2020/21年度(10月~翌9月)の大豆の生産量は、同4.3%増の1億3938万5000トン(同15.1%増)と過去最大となった(表8)。

堅調な国際価格や米ドルに対するレアル安を背景に作付面積が増加するとともに、収穫期の悪天候により品質への影響があったものの、単収が前年度を上回ったためである。

表8 大豆需給の推移

(単位:千トン)

区分	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21
期首在庫	5,405	7,780	1,391	1,571	2,184
生産量	114,075	119,282	115,030	121,092	139,385
輸入量	254	187	150	150	964
消費量	68,155	83,258	70,000	72,000	86,110
輸出量	43,800	42,600	45,000	48,628	45,934
期末在庫	7,780	1,391	1,571	2,184	8,851

資料:CONAB

### ③ 飼料穀物の価格動向

2020年のトウモロコシ生産者価格(サンパウロ州)は、国内外の強い需要を反映して、60キログラム当たり52.8レアル(前年比50.6%高)と大幅に上昇した(表9)。

また、同年の大豆生産者価格は、トウモロコシと同様に国内外の需要が強くと同107.6レアル(同49.2%安)と大幅に上昇した(表10)。

トウモロコシ、大豆ともに同年後半にかけて価格が急上昇した。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分	2016	2017	2018	2019	2020
生産者販売価格	36.8	26.4	34.0	35.0	52.8

資料:CONAB

表10 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分	2016	2017	2018	2019	2020
生産者販売価格	72.8	62.9	72.6	72.1	107.6

資料:CONAB